

**ホウエンジマ**へ 寶圓寺前 金澤寶圓寺門前の町をいふ。十二冊御定書に載せた元祿九年金澤町名に寶圓寺門前と記され、又表門下馬前といふこともある。但し寛文九年寶圓寺再造の時に至るまでは、後の表門は裏門であった。

**ホウエンハイカイシユウ** 方圓俳諧集 梅室著。天地人及び附録の四冊から成つてゐる附合集で、その地人は特に菅雁集と名づけられてゐる。附録は即ち郷布李集で、末に若干の發句もある。門人卓丈が筆記して置いたのを、書肆が請うて發刊したのだといふ。序は梅室老納、跋は庚子仲冬旭莊謙。天保十二年冬江戸須原屋茂兵衛・浪花秋田屋太右衛門・京都野田治兵衛等板。

**ホウエンホツクシユウ** 方圓發句集 増補と角書がある。二冊。序は原白、跋は芭蕉館嘉雲。京都河内屋藤四郎・江戸須原屋茂兵衛等の天保十二年に於ける板行で、梅室家集を増補したものである。

**ホウオウガワカ** 法皇ヶ岡 江沼郡菩提の東北二〇〇米に在る小丘で、高さ五五米、周囲一〇〇米。俗説に花山法皇の陵といふが、頂上に石材を露出してゐて、古墳である。

**ホウオウザン** 風凰山 金澤兼六園なる金澤の池の傍にある小丘で、加那録にはこの池を、横山左衛門の屋敷内なる山下の清水と記するが故に、當時から存在した丘と思はれる。嘉永四年丘腹に石窟を造り、その中に金城城澤碑を立てた。

**ホウオウザン** 法皇山 江沼郡勅使に在る小丘。江沼志稿に寶江山に作り、江沼郡雜記には寶郷山とする。この二書は同時代の書で

あるが、郷字を草書によつて江に誤ることが多いから、寶郷山が本名かも知れぬ。而してこの附近には那谷寺を中心として、勅使・菩提・瓶山など、いづれも花山法皇に關係ある地名傳説を造られてゐるから、寶郷山が法皇山に變じたことも、亦無理からぬことと思はれる。この丘には、現時横穴古墳が四十個を數へるまでに發掘せられ、昭和四年文部省から史蹟として指定せられた。是等の横穴は、何れも凝灰岩質の丘側を穿つて造られ、その單純なるは玄室と狭い入口とを有するに過ぎぬが、多くは羨道に一個又は二個の室を有し、長方形の玄室に續いてゐる。玄室の底側には、羨道部に向かつて傾斜した水拔溝を設け、天井は穹窿狀又は屋根形である。又二室連續するものは、玄室の側壁に穴を穿つて相通じ、その底面の高さを異にするものに在つては斜坑を以て接續する。

**ホウオンコウ** 報恩講 眞宗に於いて宗祖の爲にする報恩謝徳の法會で、一に御七晝夜とも、又は單にお佛事ともいふ。東西兩本願寺別院では舊十一月廿二日から廿八日に於いてしたが、他の寺院では各日を變へて行ひ、専光寺の如きは舊十月廿二日から廿八日までであつた。

**ホウオンジ** 法恩寺 珠洲郡南山に在つて、曹洞宗に屬する。山號は長松山。天正二年金峰寺十代清林素藤の正力に創建したのを移したものである。

**ホウガ** 保賀 江沼郡山中谷に屬する部落。

**ホウカイジ** 寶海寺 能美郡三ツ屋に在つて、眞宗東派に屬する。寺記に、初め越前坂北郡柳原に在つたが、寛永十八年能美郡小松

中町に移り、慶安二年寺號を建て、延寶五年今の地に轉じたとある。

**ホウカイジ** 法界寺 能美郡小松東町に在つて、淨土宗に屬する。明暦二年泉蓮社良道の開基で、小松山法界寺と稱した。寛永十七年廣慶の時、前田利常寺地を收め、今の地に之を遷した。

**ホウガン** 法嚴 金澤眞宗東派因徳寺の僧。もと河北郡木津正榮寺の出である。香月院講師に學び、寮司に進み、加賀法論にはお頼み方の一人であつた。安政四年三月二十九日寂。法嚴唯能院。

**ホウカンジ** 法觀寺 河北郡觀法寺に在つて、眞宗東派に屬する。慶應元年十月寺號を稱へた。

**ホウガンソレン** 芳巖祖聯 金澤天徳院四代の住持。享保十五年五月八日寂。

**ホウキユウジ** 寶久寺 金澤に在る本山派の山伏であつた。初祖を勸藏院といひ、尾張荒子の人であつたが、前田利家の入國以後兄勸藏院と共に金澤に來り、淺野川小橋に居住してゐた。後その地を召上げられたので、勸藏院は泉寺町祇園の別當願行寺に歸り、弟勸藏院は元車なる犀川春日社の別當寶久寺に居た。犀川春日社は後に位置を變じ、今犀川神社と稱するが、上記の理由によつて俗に寶久寺の春日とも言はれた。

**ホウキョウウイントウ** 寶鏡印塔 鳳至郡宅田の眞照寺に寶鏡印塔型のものがある。蓋し墓碑であらう。寶鏡印塔の胴部に刻する種子は、彌陀・藥師(又は阿闍)・釋迦・彌勒を普通とするが、これは虚空藏・彌陀・阿闍・彌勒であり、その他に一切の文字を見ぬ。最下蓮瓣

の下に約三種の缺損があつて、推定全長六三櫃、胴部二二櫃立方である。

**ホウキョウウジ** 法教寺 石川郡美川に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年七月寺號の公稱を許された。

**ホウキョウドウジヨウ** 法慶道場 石川郡四十万の内の地を法慶道場の領としたことは、明應八年九月の文書に見える。法慶道場は永正二年の文書に法慶入道とも記され、又弘治三年の文書に教勝とあるのは法慶の子と見られる。これらは同地の善性寺の源流となるものである。

**ホウキョウボウ** 寶鏡坊 石川郡四十万善性寺は、永正の頃まで寶鏡坊と稱したが、後眞宗に轉じて今の寺號になつたと記するものがある。こゝに寶鏡坊といふは法慶道場の誤である。

**ホウキョウボウ** 法敬坊 ↓ジュンセイ 順發。

**ホウキンイン** 芳權院 大聖寺藩主第九代前田利之の子某の法號。詳しくは芳權院朝露宗種孩兒。

**ホウクジ** 法句寺 金澤小將町中丁に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年十二月木、新保に於いて寺號の公稱を許され、弓町・田丸町を経て、大正五年今の地に移つた。

**ホウケイ** 鳳兮 ↓シユンドウホウケイ 春藤鳳兮。

**ホウケン** 法賢 眞宗東派の僧。諱は賢禮、乘相院と稱した。明和七年越中上野川郡濱黒崎寶藏寺の次子として生まれ、金澤慶覺寺に養はれ、後石川郡宮腰妙覺寺に住した。高倉學寮に學び、加賀法論の際はお助け方に屬し、